

6年 8月 15日

2023年度「市民防災・減災活動公募助成」事業実施報告書

団体名 予防カフェ

代表者・役職名 氏名 代表 首藤明子

1. 助成プロジェクト名

オレンジサインプロジェクト

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

2018年9月に団体設立。役員5名(介護福祉士、看護師、社会福祉士、防災士、社会保険労務士)で、専門職として経験や知識を伝えることで事前に知り学び様々な予防につながるようにと毎月1~3回の講座や体験会を開催する。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

自治会や老人サロン、障がい児サロン等の早期避難訓練や体験会を通じ、参加者の意見(認知症の不安、接し方、防災訓練のマンネリ化、近隣の交流がなくなった、何を揃えて良いかわからないまま今に至るなど)を聞き、五感を通じ体験会を実施し、安全バイアスを外し地域単位の福祉防災力構築につなげたいとプロジェクトを開始する。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

「オレンジサインプロジェクト」オレンジ=認知症イメージカラー、オレンジ=大分県防災カラー、サイン=認知症や早期避難のサインを学び行動に繋げる。地域単位のオレンジサポートー、避難所を増設し認知症や避難行動の早期発見と対策を講じる。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

「結果」44回開催、2553人参加

「成果」単身世帯の認知症早期発見3名ができた。自治会の方々と共同し家族へ連絡、受信につながった。

単身世帯の玄関先にスズメバチの巣を発見。無事に駆除に繋がった。

耳が遠くなり引きこもりがちになっている方、家庭内で転倒し怪我をされた方などの異変をキャッチできた。

玄関チャイムの壊れている高齢者世帯に対しての災害時の呼びかけを考えることにつながった。

女性学生防災士の誕生ができ、地域の活性化につながった

自治会や地域団体の顔の見えるつながりができ、新たなつながりが生まれた

「効果」認知症や早期避難行動の啓発に繋がった。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

「課題」個人情報の取り扱いについて、認識の違いがあり、災害時の個人情報の取り扱いについて競技を重ねていき、共通の取り扱いを考える。

ペットについての対策を検討

避難所開設にあたり、まだまだ協議をかさねる必要がありました。

7. 参考資料:プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、必ず、別途、ご提供ください。

～プロジェクト開催時の様子～



「口腔ケアの様子」

「駆除したスズメバチ」

「夜間の避難所(公園)疑似体験」



「屋外(夜)防災講座」

「エコノミー予防体操」

「災害時の衛生について」



「5年生防災講座」

「災害、認知症について」

「認知症疑似体験」

「防災疑似体験」



「避難訓練」



「避難所開設訓練」